

研修だより NO.5

世羅町立せらひがし小学校

令和7年11月12日

《研究主題》

児童自ら学びを深める算数科授業の創造 ～協働的な学びを軸とした個別最適な学びの取組を通して～

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」、本校の研究で参考にさせていただいている加固希支男先生の「『個別最適な学び』を実現する算数科授業のつくり方」をもとに、研究方針について改めて整理します。

算数科における数学的な見方・考え方とは

（「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」「『個別最適な学び』を実現する算数授業のつくり方」から）

数学的な見方（p22）

事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること

⇒問題を解くための着眼点

数学的な考え方（p23）

目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら、統合的・発展的に考えること

⇒問題を論理的に考えたり、大切な考え方をまとめ、まとめた大切な考え方を使って問題に発展させていったりする

思考方法

数学的な見方・考え方（p23）

事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

（例）第5学年「図形の面積」平行四辺形の面積の求め方における数学的な見方・考え方

【数学的な見方】

- ・（平行四辺形の求め方が分からず）
前に学習した長方形の面積の求め方が使えないか。
- ★既習の図形の構成要素や求め方に着目する

【数学的な考え方】

- ・様々な形の平行四辺形の面積の求め方を筋道立てて考える
- ・（平行四辺形の求め方が分かったから）三角形も長方形に変形すれば求められるかもしれない。
★発展させる

「数学的活動」とは（「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編」から）

数学的活動（p23）

事象を数理的に捉えて、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること
※数学的活動においては、単に問題を解決することのみならず、問題解決の過程や結果を振り返って、得られた結果を捉え直したり、新たな問題を見いだしたりして、統合的・発展的に考察を進めていくことが大切である。

算数科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」

（「『個別最適な学び』を実現する算数授業のつくり方」加固希支男（明治図書）より抜粋）

児童の立場からの協働的な学び

●問題を自分事として捉え、その問題を解決するために柔軟にまわりの人と関わる学び

- ・お互いに違う考え方を議論することで、新しい発見をする
- ・自分で考えることができなかつたことも、考えることができた人から教えてもらったり一緒に考えたりすることで、次にやる時には自分でできるようになる

児童の立場からの個別最適な学び

指導の個別化（単元・本時の前半）

●一人ひとりの学力や特性に合わせて、子どもが学習内容や学び方を選択し、基礎・基本となる知識や学び方を身につける学び。

※大切な考え方の共通点を見つける

- (1) 問題を解く
- (2) まわりの人と解き方や考え方を共有する
- (3) 大切な考え方を見つける
- (4) 大切な考え方を学級全体に共有する

学習の個性化（単元・本時の後半）

一人一人の興味・関心や必要性に合わせて、自ら学習を発展させ、探求していく学び。

※授業前半で解いた問題を発展させる

- (1) 問題をつくる
 - ①数を変える
 - ②個数を変える
 - ③問題場面を変える
- (2) 作った問題からきまりを見つける

★一人・ペア・グループなど学習形態を自由に選択

★いつでもまわりの人たちと一緒に学習できる環境

今後の研修予定

- 11月12日（水） 算数科における個別と協働について
12月10日（水） 今年度の成果と課題・3学期に向けて
12月17日（水） 各学年2学期単元開発提出〆切
12月24日（水） 2学期単元開発交流

